

希望のエリア東村山

～もうひとつの「希望のエリア」～



☆原発いらない！

☆再稼働反対！

☆エネルギー政策の転換を！

～金曜夕方久米川駅前行動～

未来への希望を

あの2011年3月11日から5年が経ちます。しかし、東京電力福島第一原子力発電所の原子力緊急事態宣言はいまだに解除されていません。放射能汚染水の漏出はとどまるどころを知らず、すでに166名*とも167名とも言われる子どもの甲状腺がんまたは疑いなど、原発事故の影響と考えられる健康被害は増え続けています。それにも関わらず、政府は目先の復興を優先して、放射能汚染地域への帰還政策を強引に進めようとしています。そして、地震大国の日本で、老朽化した原発を次々と再稼働させています。次の惨事が、いつどこで起きても不思議ではありません。

原子力発電は、不完全な技術であるうえに、世界的にはもう時代遅れです。ドイツ、スウェーデン、デンマークなどの環境先進国では、課題は残るものの、風力、太陽光、バイオマス、水力、地熱など再生可能なエネルギー

一への移行と省エネが積極的に進められています。

私たちは、「原発のない未来」に向けて、地域からつながる仲間たちと声を上げ続けます。

☆原発いらない！

☆再稼働反対！

☆エネルギー政策の転換を！

2016年3月11日 希望のエリア東村山

* 甲状腺がん悪性・悪性疑い166人～福島県調査Our Planet-TV 2016年2月12日（金）

これは、2016年3月11日（金）に「希望のエリア東村山」で配布したメッセージです。この日は、持ち寄ったキャンドルに祈りと願いを込めて、いつもの場所、いつもの時間に、いつものアピールをしました。

「希望のエリア東村山」は、西武新宿線久米川駅南口（東京都東村山市）で行われている「原発いらない！」アピール行動です。「金曜夕方久米川駅前行動（略称キンクメ）」とも呼んでいます。地域での出会いや交流の場ともなっており、その意味でも大切にしていきたい活動です。

例えば、2015年7月に結成された「NO！安ボ法制 東村山市民の会」、2015年8月に開催された沖縄の現状を伝える三上智恵監督の映画『標的の村』東村山上映会、2015年9月にキックオフを迎えたエネルギー地域自給の試みを目指す「東村山エナジー準備会」等、様々な動きが継続的に生まれています。

金曜夕方には駅前に集まり、「原発いらない！」の旗や「PACE（パーチェ/イタリア語で平和）」の虹の旗を掲げ、思い思いのパネルを手に、本田美奈子の「アメイジング・グレイス」やKiroroの「Best Friend」等をBGMにリレートーク。年末には音楽はジョン・レノンの「Happy Christmas♪（War is over. If you want it.）」にするなど、工夫しながら、また楽しみながら取り組んでいます。プラカードやCDやトラメガの電池、文房具などは、今のところは予期せぬカンパに頼っています。寒い冬には、通りすがりの方が「頑張ってるね、応援してるよ」と携帯カイロを差し入れて下さることもあります。雨の日も、雪の日も、風の日も、国会前の「希望のエリア」同様、お休みはほとんどありません。



メンバー自作の歌とギター、詩の朗読、珍しい楽器等が加わることもあります。弓型をしたブラジルの民族楽器「ビリンバウ」の音色には感激しました。ベレー帽の奏者は、首都圏反原発連合と一緒に国会前で活躍されている「サンバ・ナ・ファ～路上のサンバ」のシトロン稲葉さんでした。電車がハプニングで止まってしまった時などは、ご自宅に近い久米川に来てくださるようになりました。

時々、福島や九州等遠方からもゲストがいらっしやいます。韓国の生協の役員さんたちが一緒にアピールしてくれたこともあります。地元の市議会議員や映画『遺言～原発さえなければ』共同監督の豊田直巳さん、雑誌『ママ・レゴ』編集者の和田秀子さん、写真集『アイヌときどき日本人』を出版された宇井眞紀子さん等、数え上げればきりがありません。

アピール行動を始めたきっかけは、2013年夏の福島訪問でした。春に地元で開催した京都大学の小出裕章先生の講演会で、原発事故避難者からもお話をと来て頂いたのが、浪江町で代々味噌屋を営んでいらした鈴木大久さんでした。「実際に足を運んで福島の現実を見て下さい」との声に、車で出発しました。

一日目は、事故を起こした原発を望む高台に立ち、津波の傷痕が残る請戸浜を歩き、誰もいない町の中心部で信号が点滅するのを見ました。二日目には、保育所や学校を訪問し、線量の高い地域で日常生活を送る子ども達の姿に言葉を失いました。



福島訪問の報告会を終えた私たちは、「何か自分たちで継続してできることを」と考えて、全国の金曜行動に地域から連帯していくことにしました。それから丸3年。「希望のエリア東村山」は、すでに158回を迎えました。その間、国会前の「希望のエリア」とは姉妹関係のような楽しい交流が続いています。これがご縁で、2015年12月13日(日)の「第9回さよなら原発東村山ウォーク」には、明日香さん、二朗さんが東村山に来て下さり、太鼓を鳴らし、一緒にコールしながら歩きました。脱原発「ゆるキャラ」として活躍中の緑の「ゼロノミクマ君」もクリスマス帽で参加してくれたこの日のウォークは、いつにも増して盛り上がりました。終了後に、いつもの金曜日には決して会えないお二人と「まるで七夕の織姫と彦星みたいね！」と笑い合ったのは、本当にうれしいことでした。

「希望のエリア東村山」も、国会前の「希望のエリア」と同じく、楽しく明るく、誰でも無理なく参加できる雰囲気大切にしています。国会前だけでなく身近な地域からも「原発ゼロ社会」の実現をめざして声を上げ続けることが、国をも動かす力につながっていければいいな♪そして、いつか、近い将来のうちに、「昔、日本に原発があった頃、久米川の駅前でも、こんな活動があったんだってさ」と、いい意味で昔話になればいいな♪と笑顔で語り合っています。



▲「東村山エナジー」のロゴ

I'm not the only one
I hope someday
you'll join us.
Higashimurayama energy

最後に、今年は、市民の力で地域にエネルギーの地産地消を広げる市民団体「東村山エナジー」が別働隊として始動したことも、合わせて報告させていただきます。9月24日に設立総会を開催し、この秋、プロジェクトの第1弾として東村山市野口町の「デイサービス宅老所しぐれ屋」の屋根に太陽熱利用ソーラーシステムを設置することができました。毎日、利用者の皆さんが、ぽかぽかのお風呂を楽しまれています。おふろは二つ。丸い信楽焼の陶器製、四角いサワラの木製と、どちらもこだわり仕様です。気分次第でお好きな方に入られているそうです。また、震災などの緊急時に400リットルの湯・水が新たに備蓄できることや、入浴の提供が可能となることなどから、東村山市の防災担当からも地域の防災拠点として関心を寄せられています。今後は、身近な市民発電所の設置・運営をめざしつつ、自然エネルギーの活用に関する学習や情報提供などを通して、持続可能なエネルギー社会を実現し、かつ緊急時にも安心できるまちづくりをめざします。

国会前の「希望のエリア」の皆さん、そして全国津々浦々の「金曜行動」の仲間たち！これからも、連帯よろしく願いいたします。

* 「東村山エナジー」のロゴは、人の繋がりとエネルギー、植物、水、太陽を色で表現しました。波の部分は東村山の山をモチーフに太陽、自然、水を表しています。

* ビデオメッセージも添えた以下の関連リンクもご覧ください。

(文責 希望のエリア東村山 ペーター・ポール&ロージー)

参考 「マガジン9」バックナンバー 「希望のエリア」のあきらめない人々 第8回 に掲載あり

⇒<http://www.magazine9.jp/article/kibou/28189/>